

回答書・追加説明回答案 作成のお願い

※追加説明書を作成の場合は、下記のフォーマットを参考に回答及び該当説明書の該当図書/頁等・図面番号を必ず記入してください。

参考

追加説明書

確認申請受付番号	建物名称	備考	設計者 氏名等
判定受付番号 番号			
H27判受確申防大111111号	(仮称)〇〇〇新築工事		追加説明書 作成者 氏名

注)番号は、申請書・建築物独立部分別概要(第三面)に示された番号を示す。

番号	該当図書 /頁等	補正又は追加説明書を 求める事項(指摘事項)	理由	回答		備考
				回答内容	該当図書/頁等	
A-1	計算書 電算P51	浮上り考慮について	①仮定根拠不明 浮上り考慮の仮定が安全側である事の根拠が不明 (浮上り非考慮との比較検討)	浮上り考慮と非考慮の2ケースについて 比較検討し、浮上り考慮の検討が安全側 である事を確認いたしました。 検討結果を添付します。	追加検討書 P15~P35	
A-2	構造図 (S-2)	X3~X4, Y1~Y2間の小梁 B1の大きさ	構造計算書と構造図(S-2)の小梁B1サイズが異なる	構造図(S-2)に誤りがあったので構造計 算書(電算P25)により、小梁B1のサイズを 訂正いたしました。	S-2	
<p>【注記】 図書の補正や追加検討を行う場合は、以下の点に留意して回答書を作成して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書を補正する場合には、補正の理由及び補正内容を回答案に明記し、当該資料を添付して下さい。 添付した資料には、その内容が確認できるように補正箇所を明示(マーキング等)し、その資料の該当 ページを該当図書/頁等に記載してください。 ・追加検討の範囲内で一貫計算プログラムの再計算を行う場合には、エコーデータ(入力データ)につ いて修正箇所を明示(マーキング等)して運用改善マニュアル※(一般建築用)P17[モデル事例5]の要領 で比較表を作成し提出して下さい。さらに、計算結果の確認すべき範囲がわかるように、該当ページを 該当図書/頁等に記載する等の方法で明示して下さい。再計算の結果、補正が必要となった場合には、 その内容を解答欄に記載して下さい。 (複数の項目で補正が生じる場合には、別紙にまとめて記載しても構いません。) <p>※「建築確認手続き等の運用改善マニュアル」平成22年3月 発行：一般社団法人 新・建築士制度普及協会</p>				<p>追加資料の該当図書/頁又は図 面番号を記載してください。</p>		
				<p>設計者記入欄</p>		